

和歌山県議会初代議長

はま ぐち ご りよう

濱口 梧陵



（令和2年（2020年）は生誕200年）

文政3年（1820年）紀伊国
 広村（現在の広川町）に醤油商人
 である濱口七右衛門の長男とし
 て誕生しました。天保2年（18
 31年）本家に当たる千葉県銚子
 のヤマサ醤油店濱口儀兵衛の養子
 となり、醸造と販売の実務を行
 いました。また、家業に従事する
 傍ら、三宅良斎、佐久間象山な
 どの先覚者に学び、後の「耐久
 社」とよばれる私塾（現在の広川
 町立耐久中学校・和歌山県立耐
 久高等学校）を開設し、青少年の
 教育に力を注ぎました。

安政元年（1854年）広村に
 激震とともに、大津波が襲いまし
 た。梧陵は、避難の道しるべとし
 て路傍の稲むらに火を放ち、多く
 の村人を救いました。この話は
 「稲むらの火」として現在にも語
 り継がれています。その後、私財
 を投じて被災者を救護し、堅固
 な防波堤である広村堤防を築造
 しました。

和歌山県初の県議会は、同年
 5月5日から会期を延長しなが
 ら6月22日までの49日間にわたり
 開催され、梧陵は議長として取
 り仕切りました。その後、明治
 14年（1881年）10月に議員を
 辞職するまで議長を務めました。
 和歌山県庁には、梧陵の功績
 を称え銅像が建立されています。
 生誕200年の節目を迎え、
 濱口梧陵の偉業を顕彰、発信し
 ていきます。

参考：「わかやま何でも帳」
 和歌山県教育委員会 編集・発行

和歌山県庁北別館駐車場横にある
 初代議長 濱口梧陵の銅像



初代議長 濱口梧陵 年表

- 文政3年（1820年）……1歳 ※年齢は全て数え年で表記
 6月15日 紀伊国広村で生誕
- 嘉永3年（1850年）……31歳
 佐久間象山の門に出入り
 勝海舟と出会う
- 嘉永5年（1852年）……33歳
 広村に稽古場（私塾、後の耐久社）を開設
- 嘉永6年（1853年）……34歳
 七代目儀兵衛を襲名（ヤマサ醤油当主）
- 安政元年（1854年）……35歳
 11月5日（新暦12月24日）、安政南海地震が
 発生し、「稲むらの火」を掲げ村民救済
- 安政2年（1855年）……36歳
 広村堤防築堤開始
- 安政3年（1856年）……37歳
 10月 江戸の店が安政江戸地震で被災
- 安政5年（1858年）……39歳
 広村堤防完成
- 安政6年（1859年）……40歳
 種痘館（前年火災で再興のため二百両を寄付
 勝海舟に咸臨丸乗船を誘われるが断念
- 文久元年（1861年）……42歳
 医学研究費用として西洋医学所（種痘館を
 改名）に四百両を寄付
- 明治元年（1868年）……49歳
 1月29日 紀州藩勅定奉行に就任
- 明治3年（1870年）……51歳
 12月 和歌山藩権大参事に就任
- 明治4年（1871年）……52歳
 7月 駅通正に就任
 8月 初代駅通頭に就任
- 明治12年（1879年）……60歳
 国会開設建言の惣代
 和歌山県議会初代議長に就任
- 明治15年（1882年）……63歳
 12月 木国同友会を組織
- 明治17年（1884年）……65歳
 5月30日 横浜から出帆し渡米
- 明治18年（1885年）……66歳
 4月21日 ニューヨークで客死 福沢諭吉、勝
 海舟らが横浜で会葬を営む

コラム

世界津波の日

平成27年（2015年）12月の国連
 総会で、11月5日が「世界津波の
 日」として定められました。これは
 日本を含め142の国が、津波の
 脅威と対策について理解と関心を
 深めることを目的に共同提案し、
 全会一致で採択されたものです。
 11月5日が「世界津波の日」とさ
 れたのは、安政元年（1854年）
 11月5日、安政南海地震による津
 波が発生した際の梧陵の逸話「稲
 むらの火」にちなんだものです。



広川町役場前にある稲むらの火広場の銅像



広村堤防